

Information_4

猫フィラリア症のおはなし

フィラリアは別名「犬糸状虫^{いぬしじょうちゅう}」といわれ、犬と蚊を宿主とする寄生虫です。フィラリア症は犬だけの病気だと思われがちですが、フィラリアは猫にも寄生することがあります。



症状

感染から3~4ヶ月後→フィラリアが肺動脈に到達

しつこい咳、呼吸困難、嘔吐、下痢、食欲低下、体重減少、疲れやすい、失明、失神、けいれん など

フィラリアの死滅時期
(感染から2~3年後) → 死んだフィラリア虫体が肺動脈に詰まる
→ 虫体によりアナフィラキシーショックが起こる



呼吸困難、虚脱、突然死

診断が難しい・・・

猫のフィラリア症は珍しい病気ではなく、猫の10頭に1頭はフィラリア症に感染しているといわれています。ではなぜ、猫フィラリア症が身近で聞かれないのでしょうか？それは診察や検査で“発見しにくい”からです。

なぜ？

- 感染していても、無症状な場合が多い
- 寄生数が少ない（3匹以下の寄生では陽性反応が出ない）
- 症状が他の病気と区別しづらい、特徴的な症状がない など

しかし・・・

猫の突然死の原因の3割はフィラリア症によるものともいわれています

予防が肝心

感染していても無症状であったり、元気だったのに突然死してしまったりと、猫のフィラリア感染症は健康な時には発見しづらい病気です。また、犬よりもフィラリアに対する拒否反応が強いため、たった1匹の寄生でも重篤な症状を引き起こすこともあります。だからこそ、毎月1回の予防薬で確実に予防してあげましょう。

予防期間：蚊の発生した1ヵ月後～蚊のいなくなった1ヵ月後まで



薬の種類

チュアブルタイプ

毎月1回飲ませるタイプの薬です。フィラリアだけでなく、猫回虫や猫鉤虫の駆除もできます。妊娠中の猫や、離乳後の子猫にも安心して使えます。



スポットタイプ

毎月1回皮膚に垂らすタイプの薬です。フィラリアの他に、ノミ、ミミヒゼンダニ、猫回虫の駆除もできます。安全性が高く、速乾性。乾いた後は普段どおりのスキンシップができます。

